

# 校内研究実践報告

## I 概要

### 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びにつながる授業と評価 ～学びあいの学習を通して～

R2 年度 : 主体的に取り組む生徒を育てるための手立て

R3 年度 : 特に第3観点に着目した授業づくりと評価について

R4 年度 : 主体的・対話的で深い学びにつながる授業と評価の実践(仮)

### 2 研究のねらい

学習指導要領改訂の内容の理解と実践のため

- ① 育成を目指す資質・能力の3つの柱  
(知識及び技能 / 思考力・判断力・表現力等 / 学びに向かう力, 人間性等)
- ② カリキュラム・マネジメント  
(学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点)
- ③ 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりと評価について

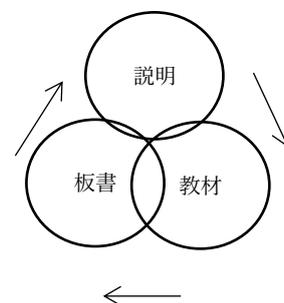
### 3 R3年度の研究方法

- ① 講師による講話(年3回を予定)や, 講話を基にした授業参観を実施して改善を図る。
- ② 今年度から始まった新学習指導要領の実施について, 4グループで研究を進める。  
第1グループ: 国語科+英語科  
第2グループ: 数学科+理科+社会科  
第3グループ: 保健体育科+美術科+音楽科+技術・家庭科  
第4グループ: 特別支援学級
- ③ 前期・後期にそれぞれ校内研究授業月間を設ける。  
前期: 6～7月 各グループの推進委員から1名  
後期: 9～11月 前期の発表者以外の全職員
- ④ 新学習指導要領をもとにした年間指導計画(千代中学校「学びプラン」)を配布する。
- ⑤ 各教科のカリキュラムをまとめた一覧表(教科年間計画票)を廊下掲示し, 必要に応じて朱書き訂正する。
- ⑥ 各教科で単元計画を配布し, 生徒が学習内容に対して見通しをもてる環境をつくる。
- ⑦ 単元成績票を配布する等, 生徒が「自分自身を振り返る」ことのできる場を用意する。

## 4 その他

H31 年度まで 3 年間実施した「千代中スタンダード」の可能な範囲での継続

千代中学校スタンダード
<b>【説明スタンダード】</b>
○見てわかる説明を心がける（視覚）
○聞く姿勢を作って説明する（聴覚）
<b>【板書スタンダード】</b>
○黒板には授業に必要なものは一切掲示しない
○授業 1 時間分の板書は黒板 1 枚程度とする
○「本時の目標（めあて）」「本時のまとめ」を明確にする
<b>【教材グループ】</b>
○学ぶ意欲を引き出すための教材を使用する



## II 成果と今後の課題

今年度は新学習指導要領に改訂された初年度であったが、昨年度から継続した取り組みの積み重ねもあり、さらに一歩前進した研究が行えた。特に、第 3 観点に着目した授業づくりと評価について取り組んできた中で新たに見えた成果と課題をまとめる。

成果に関して、内容を改善して配付した年間指導計画（千代中学びプラン）や各教科が統一して取り組んだ単元計画表の配付を通して、生徒が見通しをもって学習する環境の提供ができた。また、単元学習状況確認票の配付による「生徒自身の振り返り」を通して、生徒に自己調整の必要性や粘り強く学習に取り組む重要性に気づかせることができた（校内実施の生徒アンケート結果より）。さらに、達成規準を明確にしたルーブリックを生徒に示すことや、評価物に対する形成的評価を意識的に行うこと、第 3 観点と他観点の評価に連動性をもたせること等、多くの教員が第 3 観点の適切な評価に向けて熟考することができた。今年度の積み重ねが次年度以降の授業・評価につながると感じる。

課題に関して、第 3 観点に関わる生徒の力の見とり方が挙げられる。生徒が記述式で回答する「振り返り」が記述力によって左右されてしまう問題点や、感じた事を言葉で表現することが難しい生徒がいる点、そもそもの評価資料の妥当性等、次年度も引き続きどのような見とり方がより適切なのか検討を重ねていく必要がある。また、「本校のスタンダード」として各教科に共通する第 3 観点に関するルーブリックを確立する等、各教科の独自性を加えながら学校としての第 3 観点の見とり方も明確にしていきたい。

次年度はこれまでの取り組みをもとに授業づくりに力を入れながら、学習指導要領下での更なる指導と評価の一体化について研究を進めていきたい。